

# これからの活動(イベント)情報

産学官連携推進研究協会の今後の活動予定をお知らせいたします。  
ご興味をお持ち頂けたイベントにはぜひご参加下さい。

7月

## 1 テクノフォーラム「広島発 噴霧のレーザー計測とエンジン燃焼系開発」

日時 7月5日(木) 場所 中国電力(株)エネルギー総合研究所会議棟(広島中央サイエンスパーク)  
費用 会員無料

## 2 地域企業若手技術者向けイノベーション研修(第12回) 「MOTシリーズ:ラジカルイノベーションを起こせ」

日時 7月9日(月) 17:00~19:00 場所 産学・地域連携センター VBL オフィス  
講師 産学・地域連携センター 三枝 省三 教授

8月

## 1 総会(終了後、交流会も開催致します)

日時 8月1日(水) 17:00~ 場所 広島ガーデンパレス(広島市)  
(10:00~新技術説明会、16:00~記念講演会も併せて開催致します)

## 2 地域企業若手技術者向けイノベーション研修(第13回) 「エネルギー変換技術の進歩と地球環境(I)」

日時 8月6日(月) 場所 産学・地域連携センター VBL オフィス  
講師 産学・地域連携センター 橋本 律男 教授

これらの情報は、HPをご覧ください。 <http://www.hiroshima-u.ac.jp/techrd/>

産学官連携推進研究協会についての入会方法および活動情報の URL は  
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/kyoryokukai/> をご参照ください。

## ■ コーディネーター紹介 no.05 企業の皆様からのご相談に対応する、産学官連携コーディネーターを紹介致します。第五回は穂丸壽美氏。



穂丸 壽美 Hisami Akimaru

担当業務: 共同研究など受入れ、研究者紹介、  
各種技術相談、公的資金の応募相談

技術分野: 福祉保健・環境系、農林水産品系

職歴等: 広島大学

TEL: 082-424-4482

Email: akimaru@hiroshima-u.ac.jp

ひとこと: 地方自治体を訪ねて取材をする中で課題解決への共同研究に至る例が複数あり、学生も含めた新たな連携交流が生じる福音を得ます。また、地元企業との産学連携においても、いっしょに考えさせてもらう姿勢で臨みます。気軽に話題を提供ください。このところ、食品素材の機能性研究や、製品の包装デザインなどに多く関わっています。

## 編集後記

街中に紫陽花が綺麗な季節になりました。雨の降り続く中で、紫陽花の鮮やかな色を見ると、どこか気分が晴れやかに感じます。そもそも、梅雨というのは、気象学上は春の終わりであるとともに夏の始まりとも言われているそうです。梅雨が明けると、本格的な暑い夏がやってきます。近年は、猛暑が続いて熱中症等で亡くなる方もいらっしゃいますが、皆様は水分補給等をこまめに行い、くれぐれも体調管理には気を付けて下さい。本誌「つながる」も、暑さを吹き飛ばすくらいの情報発信を皆様にお届けできるように、頑張っていきます。

(文責: 沖井 文孝)



発行: 産学官連携推進研究協会事務局(広島大学社会連携推進機構 社会連携グループ内)  
〒739-8511 広島市鏡山一丁目3番2号 TEL: 082-424-5673/FAX: 082-424-6189/E-mail: syakai-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp  
お問い合わせ先: 広島大学 産学・地域連携センター 国際・産学連携部門  
〒739-8511 広島市鏡山一丁目3番2号 TEL: 082-424-4302/E-mail: techrd@hiroshima-u.ac.jp

## Contents

❖ 復興日本を見据えた企業と大学との連携: 吉川 雅博	1
❖ 活動報告(5~6月)	2
❖ 広島大学産学官連携推進研究協会活動評価委員会開催報告	2
❖ 広島大学研究成果集発行について	2
❖ 産学連携商品紹介	3
❖ ひろしまベンチャー助成金	3
❖ これからの活動(イベント)情報	4
❖ コーディネーター紹介	4
❖ 編集後記	4



## 復興日本を見据えた企業と大学との連携

三菱レイヨン(株)中央技術研究所  
執行役員 所長 吉川 雅博

弊社は1933年(昭和8年)、広島県大竹市にてレイヨン繊維の製造会社として創業した。当時、化学繊維(再生繊維)であるレイヨンは人絹(=人造絹糸)と呼ばれ、生産事業は国策の一つでもあったが、その後の合成繊維隆盛の流れの中で1978年(昭和53年)事業としての役割を終えた。従って現在、弊社の中で「レイヨン」は社名に残るのみである。

レイヨン工場跡地には現在、MMA(メタクリル酸メチル)モノマー工場が稼働している。この工場のC4酸化技術は、大学との共同研究を基に弊社が独自に世界で始めて工業化したものである。モノマー製造技術は触媒が命であり、工業化においては大学との基礎研究が不可欠であった。我が国の触媒化学研究が、世界一流レベルにあることの証でもある。お蔭様でMMA事業は順調に発展し、現在、弊社が世界トップシェアを頂くまでに育っている。

今日、我が国の製造業がアジア新興国の猛追を受け喘いでいる中であって、材料メーカー各社は善戦しているのではないだろうか。日本の材料メーカーの強さの秘密は何処にあるのかというご質問をよく頂くが、二つのポイントに絞ってお答えすることが多い。一つは、長い多段階の生産工程を集団管理する能力であり、農耕民としての特性の表れかとも思う。これは、絹織物などの伝統工芸品の生産技術にも通じる。他の一つは匠の技と心である。世阿弥が「守、破、離」と喝破したように、先ずは基本を徹底的に学び、次に古くなった因習を破り、最後には全く新しい境地を開拓する技と心である。両者共に庶民の歴史が培ったものであり、日本の総合力とも言える。

現在の学校教育プログラムの原型は明治初期に欧米から輸入したものであるが、この先百年の日本の復興を見据えて、我が国の歴史が育んだ世界に誇れる独自文化を取り込んだ教育の再構築を考える好機かもしれない。このような視点から企業と大学の連携を捉えるならば、世界に貢献する技術立国日本の未来像が見えてくるのではないだろうか。



## Report 1 地域企業若手技術者向けイノベーション研修プログラム

第9・10回目(4月9日・5月14日)の講師は、産学・地域連携センターの澤俊行センター長。「事故に見るものづくりの落とし穴」では、実際の事故例を基に、その原因を概観し、ものづくりのために何が必要かを解説しました。

「材料力学・強度の基礎」では、機械を設計するにあたって必要な応力-ひずみ線図等の材料特性の基礎、破壊のクライテリア、ねじり、曲げによる応力の計算と複合荷重下での応力評価と強度などの材料力学の基礎を解説しました。

第11回目(6月11日)の講師は、産学・地域連携センターの三枝省三教授。「役に立つ機械構造物の低振動・低騒音設計」では、昔からある「がりがりトンボ」というおもちゃを使って、振動を与えてプロペラを回すという事例を提示し、低振動化の基本的な考え方を解説しました。(文責:沖井 文孝)



## 広島大学産学官連携推進研究協力会活動評価委員会開催報告

広島大学産学官連携推進研究協力会(以下、研究協力会と略称)の平成23年度活動評価委員会が下記のように開催されました。

日時 平成24年4月27日(金)13:30~15:30

場所 広島大学本部棟5F 2会議室(東広島キャンパス)

出席者 委員長:農沢隆秀(マツダ株式会社)(敬称略、以下同様)

副委員長:保坂幸男(株式会社サタケ)、西村克也(代理、東広島市)

委員:森下幾三(公益財団法人ひろしま産業振興機構)、京藤倫久(戸田工業株式会社)、藤本由紀夫(本学大学院工学研究院)、二川浩樹(本学医歯薬保健学研究院)

まず、本学官地副理事より開会の挨拶がなされました。続いて、研究協力会活動推進会より昨年度の事業実績及び収支決算報告、ならびに平成24年度の事業計画案に関する説明が行われました。その後、これらに関する質疑応答が行われ、本学関係者が退席後、活動評価委員全員による評価の取り纏めがなされました。その結果を受け、農沢委員長による総合講評が行われ、全体的に研究協力会は良く活動しているとの評価を受けました。今後は以下の五つの点に留意して活動が行われるように期待するとの助言をいただきました。最後に、活動推進会長である澤産学・地域連携センター長による閉会挨拶がなされて、活動評価委員会は無事終了致しました。(文責:白浜 博幸)



活動評価委員会開催風景

- ① JST プラザ広島(平成24年3月閉館)が残した研究シーズなどの資産を、この協力会を通して活用していくこと。
- ② 本学が行っている研究協力会活動は非常にクオリティが高いが、更に幅広い会員企業を集めるためには、現在、工学領域を中心になされている活動を、人文・社会科学や食品等の分野にも広げること。
- ③ 研究協力会の将来に亘るロードマップを、人材育成活動を中心にして構築したらどうか。
- ④ 産学官連携コーディネート活動は、(公財)ひろしま産業振興機構などの公的な研究支援機関等でも行っているが、今後は本学がリードする形で役割分担を行い、より効率的な活動を行うこと。
- ⑤ 本学の信頼やプレゼンスを高めるために、品格を保ち、志を高くした、息の長い活動を行って欲しい。

## 広島大学研究成果集発行について

このたび、本学教員の研究成果の概要をとりまとめた「広島大学研究成果集(日本語版・英語版)」を作成し、出版の運びとなりました。まず、6月12日に日本語版「ライフサイエンス系」(125件)および「理工学系」(「環境・エネルギー」「ものづくり、製造」「材料・デバイス・装置」「機械」「建築・土木」「情報・通信」「計測・分析」の分野を含む)(121件)を発行しました。ついで英語版を6月下旬刊行後、人文科学系分冊も刊行予定です。

本成果集は、広島大学の研究成果を広く国内外に紹介し、産学官連携の強化を図るとともに、広島大学の知名度向上と研究のレベルアップを目的として刊行しました。今後は、本成果集を産業界との連携推進のツールとして活用し、会員の皆様との連携を深めていきたいと考えております。

これまで、本学ウェブサイト「ひまわり」研究シーズ・データベースを公開しておりましたが、この機会に本データベースもさらに使いやすく刷新し、豊富な情報を提供できるようになりますので、完成の折にはまたお知らせします。

本成果集をご一読頂き、ご関心のあるテーマ・研究者がございましたら、是非ご一報頂ければ幸いです。(文責:中野 博子)



このページでは、企業と広島大学との共同研究の結果、商品化につながったものを紹介して参ります。

## 産学連携商品紹介

### 八朔銘菓せとこまち 和菓子

尾道市から提案を受け「地域貢献研究」として「シトラスパーク瀬戸田」のかんきつの機能評価を行ってきました。それをベースに、(株)にしき堂・広島大学・尾道市の三者連携の結果、商品化につながりました。ハッサクジャムのさわやかさを求肥で包みこんだオリジナリティあふれる和菓子です。パッケージデザインは江崎教授が学生を指導し作成、好評を得ています。



**商品情報**

2009年11月発売 1個110円(税込)  
当初販売目標3億円

**関係機関・研究者**

(株)にしき堂、広島大学(平田敏文名誉教授、矢中規之准教授、神田博史准教授、江崎哲教授)、JST イノベーションプラザ広島

**問い合わせ**

(株)にしき堂  
TEL:082-262-3131 <http://www.nisikido.co.jp/>



## ひろしまベンチャー助成金

**募集期間** 平成24年6月1日(金)~平成24年9月30日(日)(当日消印有効)

**助成対象**

広島県内に主たる事業所(事務所)を置くか、あるいは広島県内在住の新規性・独創性のある技術やビジネスプラン等を持つ、創業前又は創業後研究開発段階にある将来有望な法人・個人で次の要件に該当すること。

**【法人】**

- ① 創業または設立から7年未満、かつ前年度売上高5億円以下
- ② 子会社(会社法上)の場合、親会社が上記①の要件に該当すること
- ③ 特定非営利活動法人(NPO)でないこと

**【個人】**

創業前および創業から7年未満、かつ前年度売上高5億円以下

**助成内容**

- 12先程度に交付予定
- ・ひろしまベンチャー大賞(法人・個人問わず)・・・500万円
  - ・ひろしまベンチャー奨励賞(法人)・・・100~300万円
  - ・ひろしまベンチャー育成賞(個人)・・・50~200万円
  - ・ひろしまベンチャーエコ特別賞(法人・個人問わず)・・・100万円

**助成金交付** 平成24年12月予定

**応募方法**

所定の「助成金交付申請書」に必要事項を記入し、申請書に記載の必要書類を添付したものを郵便書留にて受付けます。詳細は、ホームページ <http://www.hiro-venture.or.jp> をご覧ください。

**助成先の選考**

- 一次書類審査(平成24年10月予定)  
学識経験者、ベンチャー支援機関、金融機関等からなる審査委員により審査し、二次面接審査への選考を行う。
- 二次面接審査(平成24年11月予定)  
学識経験者、ベンチャー支援機関、民間企業、金融機関等からなる審査委員により審査し、助成対象先の選考を行う。

●お問い合わせ先:株式会社広島銀行法人営業部内 公益財団法人ひろしまベンチャー育成基金事務局

TEL:082-504-3861

ひろしまベンチャー育成

検索

<http://www.hiro-venture.or.jp>